

市民スタッフ (G-free) 紹介

堀田 静枝



市民スタッフはまだ浅く、始めたきっかけは、募集を見て。他のボランティアは13年位になりますが、このスタッフもやってみてみたいと思いました。色々勉強になることが沢山あります。夜の会議は、中々出席できませんが、職員の皆さんや仲間の人たちと出来るだけ続けたいと思います。その他にドラゴンズと特に好きなアーティスト(福山雅治)のファンクラブに入っています。

森 光子



南部コミセンで久しぶりに出会った友人に声をかけられ「市民スタッフ」の存在を知りました。五十数年前にクラブ定期演奏会のステージで、歌ったことのある懐かしい市民会館。チケットもぎりやパンフを渡しながら、思わぬ人に会えるのもうれしいことの一つです。五年生の孫のピアノ演奏会が実現したらなあ、なんて！楽しみながらやっています。

岐阜市民会館、岐阜市文化センターで、活動する文化ボランティアを募集しています。

市民スタッフ「G-free」募集!!

【活動内容】

- * 市民会館・文化センター主催事業の補助 (受付や案内等)
- * 文化事業の新規企画
- * ぎふアジア映画祭の運営 (作品選定・企画・広報等)
- * カメラ・ビデオなどの記録撮影
- * イラストの作成 (活動誌など)



岐阜市文化センター TEL: 058-262-6200



岐阜市民会館

〒500-8812 岐阜市美江寺町2丁目6番地
TEL 058-262-8111 FAX 058-262-8114
<http://gifu-civic.info>



岐阜市文化センター

〒500-8842 岐阜市金町5丁目7番地2
TEL 058-262-6200 FAX 058-262-6229
<http://gifu-culture.info>



G-free

第11号

岐阜市民会館・岐阜市文化センター

市民スタッフ活動報告誌



G-free

第11号

平成25年2月1日

平成25年2月1日





第34回 ぎふアジア映画祭

Report 平成24年9月1日~12月9日

「ぎふアジア映画祭」本年度は10カ国15作品を上映いたしました。上映作品に併せての特別企画は、「清水美穂さんのゲストトーク」、「ロボコン体験」、「久保田弘信ゲストトーク」など多々ありましたが、それぞれ楽しんでいただけたと思います。また、エンディング企画「支配人たちの裏話」では、映画祭でしか聞けないような裏話を聞かせていただきました。

グット&シアター2012

アジア映画の枠を越えていろいろな国の作品をと始めたグットシアターです。すっかり定着し、楽しんでいただけたと思います。映画は、劇場のシートに座った瞬間から、過去にも未来にも行けるタイムマシンであり、世界中を旅することもできる「どこでもドア」。これからも映画の旅を楽しみましょう。

(市民スタッフ 大江 繁美)



オープニング LIVEの様子



清水美穂さんのゲストトーク

エンディングノート

会社退職後ガンに侵され最期を迎えるまでの父親に、娘である監督がカメラを向けた日本のドキュメンタリー映画「エンディングノート」。実はちょっとした成り行きで本作を鑑賞することになった私は、驚きました。人に薦めたくなくなりました。何故か？不謹慎でしょうが、とても面白かったんだもの。哀しくて可笑しくて。人の死を扱いながらもなんと清々しい一本、傑作でした。そして本年度映画祭、上映15作品の中で最も多くの方が興味を持って会場に足を運んでくださった本作。話題やブームもあって予想以上の反響。しかし願い通り。作品選定の喜びを改めて実感しました。とは言え、ものの感じ方は十人十色。観た人それぞれの形で記憶に残る一本になっていたら本当に幸いです。ご来場くださったお客さま方、ありがとうございました。心より感謝いたします。

(市民スタッフ 大江美穂)



ロボット

12月8日はインド映画、「ロボット」の公開日。会場ではインド雑貨やナンの販売、無料チャイのコーナーも設けられ、多くのお客さんと賑わいました。私はインド人の方2人と来場。うち、一人の方は「僕は今日で6回目の鑑賞。」とのこと。タミル地方出身の彼らにとってラジニ・カーントは本当にスーパースターだったのでした。上映中も隣でクスクス笑ってたり。インドではもっとお祭り騒ぎのような鑑賞の仕方の様ですが、ここは日本。隣の彼らに「静かに見るのが日本のマナーだからね。」とそっと耳打ちしたのでした。

(市民スタッフ 田中なぎさ)

久保田弘信ゲストトーク

ネコ型ロボット



イラクを舞台にした映画「バビロンの陽光」に感動した後、満員の会場で久保田弘信さんのゲストトークが行われました。久保田さんは、アフガニスタン、イラクなど現地の取材をされ、報道されない真実を話されました。戦場カメラマン渡部陽一さんとも一時期一緒に、渡部さんは戦闘があれば危険を省まないというのは驚きでした。多くのメディアは激しい戦闘を報道し、それは事実ですが、すべてではありません。久保田さんが撮影されたDVDは、まさに命がけの撮影シーンや赤ちゃんの死など悲しく辛い場面がありますが、戦火の中でも日常の生活や子どもたちの笑顔もあります。再会した人との喜びや人なつこいイラク人との会話は、見ていて温かい気持ちになります。最後に、明日最前線に行く兵士たちの笑顔の意味を考えると涙があふれてしまいました。久保田さんの貴重なお話は、あらためてイラクや世界中の平和を祈ります。

(市民スタッフ 山田祥子)

初めて映画祭に参加して...

2012年の後半から活動に参加しました。作品の選定が終わってからです。とても温かい空気です。スタッフのみなさんは迎え入れてくださいました。ホームページの作成やfacebookなど、多くのみなさんにアジア映画祭を知ってもらうことを目的に様々なことに参加させてもらいとても、充実していました。来年度は、より密接に作品選定にも関わっていかれたらと思います。

(市民スタッフ 加藤亮太)

はじめまして。映画館のない町から来岐6年、市民スタッフ満一年を迎えた長瀬です。初めて映画選定、企画や販売も含めて関わらせていただき、スタッフ同士が挙げる候補作と余談から現れる新しい作品、話題に上る古い作品や過去上映作品を追いかけるだけで精いっぱい的一年、あつという間でしたが、とても有意義だったと感じています。

(市民スタッフ 長瀬宏子)

大須映画祭2012へゲスト参加 平成24年10月13日

愛知、三重などで映画祭を主催される方々と一緒に岐阜の代表として我等「アジア映画祭」がパネリストとしてお招きいただきました。それぞれの映画祭の問題点、苦労話、また感動等を聞いてまいりました。そんななかで我々の映画祭は、行政と市民が良い関係を保ちながら、協力してすすめていっている素晴らしい映画祭だと思いました。これからもながく続いていけたら嬉しいです。

(市民スタッフ 大江繁美)



パネリスト...左/市民スタッフ大江、右/職員高橋